

# 中央大学学員会 第23号 49年白門会会報

発行日 平成23年12月3日  
発行人 山崎 厚太  
発行所 中央大学学員会49年白門会  
印刷所 (有)東光美術印刷

東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学駿河台記念館学員会事務局

49年白門会のホームページ → <http://www.gakuinkai.com/hakumon49/>

49会のホームページから「会員の部屋」に入る際のユーザー名は49nen、パスワードはhakumonです。

※メールアドレスが変更になりました。新アドレスは

**hakumon49@gakuinkai.com**です。

会員の皆様の登録・変更をお願いします。PC、携帯でも可能です。

## CONTENTS

- 1ページ ★不覚の涙 葛西聖司
- 2ページ ★2011年総会議案報告
- 3ページ ★2011年総会・懇親会リポート
- 4ページ ★会員からのエッセー「還暦になって思うこと」
- 6ページ ★友へのメッセージ 渡辺博史 ★楽苦我喜 大竹力三
- 7ページ ★ちょっと役立つアラカン写真講座 高橋和幸  
★カラオケパーティー実況中継 山崎厚太 ★事業部掲示板
- 8ページ ★49同期GOLF会活動記 荻原紀行 ★会費納入のお願い  
★LINK登録募集中 肥沼敏子 ★編集後記



(題字・葛西聖司)



中央大学クレセントアカデミーで「歌舞伎講座」を担当して、もう12年になる。50代の声が聞こえてくるようになって、放送の仕事や一回ぎりの講演会とは違う「社会とのつながり」を意識して、この講座を始めただが、これほど続くとは思っていなかった。

教室に通ってくるのは、ほとんどが社会人。現役の中生がいて、現在、文楽の若手大夫として活躍している豊竹靖大夫もいるが、これは例外。自由業の人、主婦、そしてリタイア世代の男性も多い。15人ほどで始まった講座も、常時60人という大所帯になった。そして、いつのまにかわたし自身がリタイア組に。

今年3月、わたしは60歳の誕生日を迎える前に、あえてNHKを退職

## 不覚の涙

した。つまり無職、無所属、肩書なしの人生が始まったのである。名刺も名刺だけ。でもパソコンで自作できるのが便利だ。さまざまな模様をダウンロードしたり、色を組み合わせたリ、印刷がずれて、お粗末なものもできるが、しょっちゅうデザインを変えて楽しんでいる。

退職を意識したのは1年前。59歳になってすぐ、初孫に恵まれた。夜討ち朝駆けの仕事の言い訳に、子育てには全く参加せず、勝手気ままなアナウンサー人生を歩んできたのだが、世の言い伝え通り、やはり孫は別格だ。

誕生日後、一つの命と向き合った時、喜びではなく「不覚の涙」を覚えた。そして、そんな自分に、自分がびっくりしてしまった。いままで自分を縛って大切だと思っていたものが、そうではないような気がしたのだ。つまりテレビやラジオの仕事である。放送人として現役を続けるため番組中心に人生を歩むのは、もういいかなと思わせてくれたきっかけが、思いがけない天からの授かりものだった。

2年前のこの会報に、担当番組「フジオ深夜便」のことも書いた。当時

49年白門会 副会長

葛西 聖司

は、リタイア後も続けようと考えていた。しかし、それにこだわっていると、自分らしいことができないことに気付いたのだ。大学の講義を終えてスタジオにはいり、朝5時まで生放送、その足で品川駅始発の新幹線で大阪にゆき舞台を勤めたこともあった。その逆で夜の番組を終え、11時過ぎの飛行機で北九州に、ホテルに午前1時に着き、翌朝6時半の特急で大分の大学に集中講義という日もあった。

番組は永遠にあるわけではない。本当にやりたいことは？ と問われて、望まれて機会を与えられ、自分らしく学べる。それが講座や講義や執筆活動にあるのかなと気づかされたのだ。

実はクレセントアカデミーに学ぶみなさんが、そんな喜びを教えてください。いま青山のNHK文化センターや甲府、大分、愛媛、三重、静岡の公開講座もその延長にある。

教えるのではなく、お互いに学びあう場。やっと、わたしも講座のみなさんの仲間になれたといえる。不覚の涙とともに。

# 【49年白門会2011年総会】

2011年7月2日の土曜日に御茶ノ水の駿河台記念館において2011年の総会が開かれた。議案は全員の拍手で承認された。還暦を迎え、新しい「49年会」に向けて前進だ。

## ■第1号議案

### 2010年度事業活動報告

- 1・2010年5月22日(土) 明治神宮菅野浦園散策 (土風炉)代々木店：出席者数11名
- 2・2010年7月3日(土) 総会・懇親会 (中央大学駿河台記念館「ブリーオール」)：出席者数31名
- 3・2010年7月31日(土) 納涼ビアパーティー (ブラスセリール銀座ライオン銀座二丁目店)：出席者数12名
- 4・2010年10月16日(土) 浅草寺参拝と天菊花展見学 (浅草寺・天麩羅「大黒家」)：出席者数18名
- 5・2010年12月4日(土) 忘年会 (渋谷「豚しゃぶ・ろくまる五元豚」青山オーバルビル店)：出席者数16名
- 6・2011年1月29日(土) 新年会 (銀座レストラン サンミ本店)：出席者数34名
- 7・2011年3月12日(土) 葛飾柴又散策 (東日本大震災のため中止)
- 8・中央大学49年白門会会報の発行 (第20号：2010年6月5日(土)・第21号：2010年12月4日(土))
- 9・中央大学49年白門会役員会活動 (第61回：2010年4月17日(土)・第62回：2010年5月29日(土))

## ■第3号議案

### 2011年度事業計画案

- 1・「中央大学49年白門会」事業計画基本について  
 会員相互の親睦・交流、会の組織強化、中央大学および学生会他支部との交流を図るための活動を行う。  
 (1)親睦会・懇親会等の開催と各種同好会活動の実施  
 (2)会員名簿・会報の発行  
 (3)新規会員の勧誘  
 (4)中央大学学生会他支部との交流
- 2・2011年度事業計画(案)について  
 (1)「総会(中央大学駿河台記念館ブリーオール)」(2011年7月2日(土))  
 (2)「カラオケ+ビアパーティー」(2011年8月6日(土))  
 (3)「中央大学ホームカミングデー」(2011年10月23日(日))  
 (4)東京タワー見学(2011年11月12日(土))  
 (5)「新年会(銀座レストラン サンミ本店)」(2012年1月28日(土))  
 (6)「サントリー武蔵野ビール場見学」(2012年3月10日(土))
- 10・会員数  
 ・会員総数(273名)  
 ・2010年度新入会員数(4名)
- 第63回：2010年6月26日(土)  
 第64回：2010年7月14日(水)  
 第65回：2010年9月4日(土)  
 第66回：2010年12月1日(水)  
 第67回：2011年2月5日(土)

## ■第2号議案 2010年度収支決算報告について(2010年4月1日～2011年3月31日)

(収入の部) (単位：円)

費用	決算額	概要
会費収入	277,000	会費(86名) 入会金(4名) 重複払(2名)
懇親会収入	343,000	総会(29名) 新年会(33名)
雑収入	240,509	125周年寄付金還付金 学生会支部活動支援強化補助費他
収入計	860,509	

(支出の部) (単位：円)

費用	決算額	概要
通信費	97,555	行事案内等発送費・後納郵便料、切手代他
事業費	220,500	会報制作費(第22号・第23号)
懇親会費	323,800	総会パーティー費、新年会費
事務費	0	
交際費	101,000	125周年寄付金、学員時報広告費他
雑費	17,331	郵便振替等振込手数料、内容証明手数料、インターネット代他
支出計	760,186	
収支差額	100,323	
前年度繰越金	627,038	
次年度繰越金	727,361	

## ■第4号議案 2011年度予算(案)について

(収入の部) (単位：円)

費用	予算額	概要
会費収入	340,000	会費(100名×@3000円+新規会員10名×@4000円)
懇親会収入	330,000	総会懇親会費(@5000円×30名) 新年会費(@6000円×30名)
雑収入	50,000	学生会支部活動支援強化補助費他
収入計	720,000	

(支出の部) (単位：円)

費用	予算額	概要
通信費	85,000	行事案内等発送費・後納郵便料他
事業費	250,000	会報制作費(第22号・第23号)
懇親会費	330,000	総会パーティー・飲食費、新年会飲食費
事務費	0	
交際費	30,000	学員時報広告費
雑費	25,000	郵便振替等振込手数料、インターネット代他
支出計	720,000	
収支差額	0	
前年度繰越金	727,361	
次年度繰越金	727,361	



# 東日本大震災にあっても 「49年白門会」はガンバル!!

3月11日の東日本大震災から約4カ月、7月2日(土)に33名が駿河台記念館に集まった。ほとんどが還暦を迎えていたが、震災にもめげずたくましく生きるアラカン世代の会員は、学生時代の青春の輝きを放っていた。至福の時間を過ごすことができた。

## 少しずつ参加者が 増えて来た総会

6月末から猛暑日が続いて暑い7月に入った第一土曜日の2日、49会の総会が開かれました。昨年と同じ御茶ノ水にある中央大学駿河台記念館のレストラン「プリアール」で12時半から始まりました。前年までは開始が3時からでしたが、今年からは懇親会が昼食時間になるようにという考えでこの時間になりました。



還暦を迎えた人に抽選で赤い法被がプレゼント。

会員の皆さんのほとんどが還暦を迎えたせいも、昨年あたりから新年会や各行事の参加者が増えてきました。今回の総会にも33名の方が集まりました。

定刻の12時半から山崎会長の挨拶でスタート。出席会員の中から議長に荒木康裕さんを選び、4つの議案を審議しました。

第1号議案の10年度の事業活動報告は事業部長の小澤秀敏さんから説明がありました。東日本大震災のため3月12日に予定していた葛飾柴文散策が中止になった事も報告されました。第2号議案の10年度収支決算報告は会計部長の原伸正さんから説明がありました。収支がプラス10万円、堅調な収支である事が説明され、会計監事の藤本真也さんから監査報告がありました。第3号議案の11年度事業計画案、第4号議案の11年度予算案もそれぞれ小澤さんと原さんから説明があり、全議案とも会員の拍手で了承されました。

中島章夫幹事長から15周年の寄付金の件で、支部名で50万円以上寄付をした支部が11支部あり、49会もそのうちのひとつだという報告がありました。

総会は予定通り1時に終わり、懇親会の準備のために5分間休憩になりました。

## 地震、停電、節電 還暦、定年……

1時5分から同じ会場で大澤事業部長の司会で懇親会が始まりました。最初に今回より新会員になった福松征男さんの紹介があり、福松さんの挨拶がありました。引き続き宮川保副会長の乾杯の発声でスタート。ちょうど昼食の時間でお腹もすいていた皆さんは料理のテーブルに殺到。しばらくは食事をしながらの歓談になりました。

東日本大震災から約4カ月たち、地震の時何をしていてどうしたのかが話題の中心でした。前日の7月1日より東京電力と東北電力管内で「電力使用制限令」が発動されましたが、この管内でない遠方から3名の方が参加されました。愛知県・加納幹郎さん、新潟県・松平守さん、富山県・浜手基親さんの3名です。それぞれ挨拶をいただきました。

2時間の懇親時間の最初の1時間は飲み食いの方に忙しかったのです

が、流石にお腹が一杯になると椅子に坐ってグラス片手に手持無沙汰になってきます。この時間帯に小澤さんが名司会ふりを発揮。女性の参加者は3名、当然全員からの挨拶をいただき場を和ませてから、7、8名から軽妙な振りで挨拶を引き出しました。指名された皆さんは流石還暦を超える(？)話がうま、手短にお話しを披露します。小澤さんは最後に今回一番目立つ格好で来た方メラマンの高橋和幸さんを指名。

クールビズが喧伝されている今日この頃、総会の参加者もポロシャツやノーネクタイ姿がほとんどですが、高橋さんのいでたちはアロハに短パン、サングラスにパナマ帽という完全に「海へ行こうぜ！」スタイル。カラーでお見せできないのが残念ですが、集合写真の右端が高橋さんです。会場に来る電車の中でも両隣に誰も坐らなかつたという話から、家族のエピソードまで披露してくれ、会場は爆笑の嵐。

締めは名古屋から日帰りで参加した加納さんの一本締めでお開きになりました。記念撮影と恒例の応援歌、小澤さんのエール交換と、予定された行事を全てこなし、3時過ぎには

会場を後にして、近くの2次会の居酒屋に向かいました。節電でサマタイム導入とかで居酒屋も1時間早めて4時からオープンするところがある今日この頃ですが、2次会は3時半からのスタート。貸し切り状態の店内で2次会も盛り上がったようです。(広報部)



## 会員からの エッセー

# 「還暦になつて思つていふ」を語る

ほとんどの会員の皆様は還暦を迎えていると思います。50代から60代へ移った感想は人それぞれに違います。「60代初めて来たが〇〇〇〇」という声が届きました。(レイアウトの都合により一部割愛させていただきました)

## 還暦を迎えて

有吉 通泰 (商) 神奈川県  
横浜市

辞書に還暦とは十支が一巡し、起算点となった年の干支に戻ることをあります。随分長生きをしたということ、昔は盛大に60歳の誕生日を祝っていたようです。また還暦の日には、悠然たる第二の人生の出發の日だったのかもしれない。

今では、それほど余裕を持って還暦を迎えている人は少ないのではないのでしょうか。これからの長い余生を生き抜いていく新たな出發の日になつていくように思います。

私は還暦を過ぎてから30年が経ちました。少し寄り道をしたので、同級生より早く還暦を迎えました。還暦を迎えると同時に、35年勤務した会社を定年退職し、その関連会社に役員として勤務を始めました。仕事の変わり目と間に置かなかつたので、ずっと仕事に浸り通しです。本来ならば悠々たる年金生活が始まるのでしようが、少子化の時代ですから、まともな暮らしが出来ないほどの十分な年金は貰えないようです。こつこつ中で生きがいを見つけ

しつかり生きていかなければならぬとの思いを日々強く持っています。

最近、新たな趣味の世界を見つけました。中央大学駅伝部の応援です。選手たちの日頃の努力や真剣な取り組み姿勢に魅せられ「箱根駅伝を強くなる会」に入り、記録会の観戦や合宿訪問、更に選手の激励会への参加と行動しています。箱根という目標に向かって頑張っている選手たちと想いを二にして母校の勝利を願っています。

## 目指すぞ、男盛り

浜手 基親 (文) 富山県  
氷見市

昭和26年4月12日生まれで、今春還暦を迎えた。正月には、地元の手向神社へ幼なじみ7人が詣でて、「いよいよ自分も還暦という人生の節目を迎えたのだ」と、実感がわいた。

それから、はや1年が過ぎようとしている。60年×365日(うらうら)年はおいては2万1000日。これまで、それだけのお日さまやお月さまを眺めてきたかと思うと、長いようにも、短いようにも感じる。幼なじみは、男女合わせて10数人。

女性は大半がよそへ嫁ぎ、男性は多くが地元に残り、自治会の世話などに忙しい者もいる。自分は囑託として会社に残り、現役とは一線を引いて仕事をしている。

「月曜日、行く所がある」だけでもいいと思わなくてはならない。がむしろそれを捨て、余裕ある仕事やっと思える、と考えるようにしている。「50、60ははなれ小僧、男盛りは80、90」の狂歌は、安田善次郎といわれるが、富山出身の銀行王・善次郎にならつて「男盛り」を目指したい。

それには、まず健康。いまのところ大きな病気がないが、あまり太りすぎないよう注意が必要。量はさほどいれないが、日本酒やビール、焼酎は相変わらずおいしく、毎晩でも飲みたい。それが「太りすぎの原因」と言われるのが、つらい。

## 感謝、感謝です

増澤 繁 (法) 千葉県  
柏市

「還暦」になる前また、その時は、抵抗がありましたね。まだ若いつもりでいたのに。でも、「還暦」に慣れた今は、感謝の毎日!!

赤いものを着せられたり、赤いネクタイを頂戴するにつれ、私のことを覚えていくくれる方々も結構いるものだと、人の優しさがこの世への感謝が分ってきました。

そして、今、昼から温泉に行き、友と飲む湯上りの生ビールに感謝。沖繩から、あつという間に、泡盛が宅急便で届く便利さにも感謝。さらには、青空も、風に舞う落ち葉も美しく、嬉しく、感じる。

「還暦」ゆえに、もはや、焦りも過剰な欲も、いわんや、虚飾も必要なし。必要なのは、淡々と感謝する自分の心かな。世の中は、良いことも良からぬこともあることは「還暦」までに、重々分りきつたこと。問題は主観、すなわち、自分の心かな……なん、今頃、悟っている私です。

最近、面白いのは、旧友と会うことです。ずっと付き合っている旧友ではなく、年賀状の付き合いしかなかった旧友と会ってみることをお奨めします。セラー服の印象が強烈な人が、今、孫が数人なんとも。また、妙な理屈ばかりこねていた法曹人が紳士的になっていたり。

未筆ながら、私は、「還暦」になつてから、神の存在を信じるようになりました。こんな、私が必要です。特定の宗教ではなく、神そのものは存在するだろうと。その下で、私の今までの人生は「反省する」とばかりか、人様に多くの迷惑もかけてきたかな。でも、「還暦」以降、淡々と、偽りなく、感謝して、生きれば許されるかな。

## 私の「死亡通知」

塩賀 光明 (法) 埼玉県  
朝霞市

還暦を過ぎた。春秋が残り少ないと思うか、それとも陽は未だ中天にありと考えるか、人それぞれであろう。大事な人たちがいる。したたかに生きようと思う。凶らずも斃れたらば、どうかこの便りに惜別の思いを汲んでほしい。

前略 この便りが届くころ、私はすでに鬼籍に入っています。葬儀等一切行いません。墓も必要としません。ほごなく南薩摩の海に散骨されるでしょう。私がかつて天と地の間に在ったとき、皆様からいただいた御交誼に対し、心からの感謝を申し上げます。

「銀漢や紐のほどけるやつに逝く」若かりし日にふと出会い、爾來濃密な時を共に過ごした友人の句。地球も、銀河も、そして広大無辺の宇宙でさえも、やがて終焉を迎えます。「万物は有限」の理を、受け入れるべき時が来ました。私をこの世に永く繋ぎとめてきた紐が、静かにほどけて、私を解き放つていっています。

みかんの花が、咲いている。思ひ出の道、丘の道、はるかに見える青い海、お船が遠く、かすんでる、黒い煙を、はきながらお船はどこへ、行くのでしょうか、波にゆられて、鳥のかげ、汽笛がぼつと鳴りました。「みかんの花咲く丘」に歌われた



風景は、どこまでも自由であった少年時代の情景に連なります。懐かしい故郷大浦の光と風の中に、魂魄となって還ります。もうこの世には戻りません。さよなら。愛しい人たち。

草々

## 気持ちは50歳!

佐藤 信春(理工) 東京都  
西東京市

私は、74年4月に会社勤めを始め、74年から、早37年が経ち今年(1月)で還暦(定年)を迎えました。6ヶ月前に日本年金機構から年金請求書が送られてきて、年金事務所へ請求書の書き方及び年金がいくら貰えるのかを教えるというのを足運ひしました。年金額を教えるという、つい出てしまった言葉が「これだけですか? 間違いありませんか?」と、ガクガクした事を思い出します。

自分が若い時に、諸先輩方が60歳を迎えたときは、悠々自適の年金生活に入れますねと言って一緒に喜んでたのですが、自分が定年を迎え、年金では生活が出来ない事をまざまざと知り愕然となりました。時代は変わったのだと、又、諸先輩方が60歳を迎えたときは、エイフ年寄りだなど思っていたが、いざ自分がその年になって、未だ気持ちは50歳位のつもりでいる。チョット複雑な気持ちである。現在は、今の会社で再雇用契約により今までと同じ営業の仕事を継続している。

若い人たちへの指導とやる気を引き出しながら未だバリバリ仕事をやっている(自分が若い人達に迷惑をかけているのかも分からないが...)。特殊事情もあるが、自分流を出しながら強引に又、謙虚さも出しながら「自分がゼロから育てた世界一の装置」のシェアを維持する手助けをして行うと考えている(精一杯、行ける範囲まで、必要とされるまで)。



## 畑の管理人

六倉 壽夫(法) 千葉県  
千葉市

この3月に千葉市役所を定年退職した。退職後の身の振り方についてはあらかじめ決めておいたので迷いはなかった。父親が創設した幼稚園で働くことになっていたからだ。ただ、健康面での不安が出ていた。まさに還暦を迎えた昨年10月、健康診断で高血圧の診断が下ったのである。若い頃は、痩身であり朝起きるのがつらく低血圧の典型とばかり思っていた。しかし、50歳を過ぎたころから体が重くなり毎年背広を買い替える羽目になっていた。

公務員時代は意識していなくてもストレスがあったことを、退職してから実感している。精神的にはと

している自分があるのだ。多くの仲間もきっとそうだと思う。

4月からは園児達と毎朝、挨拶とタッチをしている。子供たちは元気がよく好奇心にあふれている。役所生活で培った行動・思考パターンとサヨナラして、新たなものを見つけていくことが必要だと子供たちに教えられている気がしている。

そこで、幼稚園の畑に目を向け、「理事長は机に向かっていただけではなく、外に出よう。畑の管理人でいいのだ。運動不足の解消にもなるし、何よりも健康的である。」と考へ、実践に移した。9月には園児が大根の種を蒔くための準備作業に耕耘機で畑を耕した。これから畑の管理人として立派な畑づくりを目指したい。幼稚園で何がしかのお役にたてばと思っている昨今である。

## まさかの出来事が

小泉 純子(文) 埼玉県  
川越市

11年1月1日。その日夫と私は新年の挨拶に訪れる息子達家族を今か今かと待ちかまえていた。私達にとつて今年も、二人揃って還暦を迎えるめでたい年である。子供が息子唯一人である私達は、息子を溺愛するあまり育児や教育方針の違いから若い頃度々衝突したものだ。

その息子も33歳、いまや2人の父親となった。幼い孫2人に囲まれ、平凡だが穏やかで平和な一年の幕開

けだった。それから僅か2ヶ月余り、何とも信じ難い悪夢のような出来事が我々に襲いかかった。未曾有の大震災に不幸にも遭遇してしまった。記念すべき還暦の年が、生涯忘れられない最悪の年となってしまった。あの日を境にして私の中で何かが変わってしまった。それが何であるか不確かであるが、大きな支えを失ってしまったような、先の見えないうい知れぬ不安が心の片隅に住みついてしまった。当初私は安全神話が崩壊したこの日本から、一刻も早く脱出したいという衝動に駆られた。そんな不安の中で私を救ってくれた物は、復興や原発事故の解決の出口を未だ見出せない日本政府ではなく、私にとつて最も信頼できる物、愛すべき物は紛れもなく家族であるという事を、この大震災が改めて私に教えてくれた。

一方では、幼い孫達や30代の息子夫婦に放射能汚染が与える影響等心配の種が尽きない。この世に神や仏が存在する事を願い、一日も早い復興と原発事故の収束を祈りつつ、日々悔いなきまよふ歩んでいきたいと思う。

## 母校は仲間の原点

福松 征男(法) 東京都  
品川区

私の出身地は九州、宮崎です。私の母校・宮崎市立穆佐(むかさ)小学校は台風時などの浸水災害からの脱出という地域住民の要望をかなえ

るため、近くの高台に移転、改築し、生まれ変わりました。地元新聞記事で母校が移転、改築されることを知り、同郷の仲間と社会の末である後輩たちへ何か記念になるものを贈ろうと呼びかけ、寄付金を集めて体育館の緞帳(とんちゆう)を寄贈しました。

今年の夏に新校舎が完成し、9月に開かれた校舎完成記念式典への案内を受け、会長らとともに出席し、市長から感謝状が授与されました。私の郷土は東京慈恵医大を創設した「ビタミンの父」と呼ばれる高木兼寛という医学者の生誕の地として、色々な顕彰事業が行われ、中学校の学習にも取り入れられています。今回の式典において、5年生の児童たちが穆佐先生と呼ばれている兼寛が医学者を目指す頃の劇を発表しました。

また、記念品代拠出者に原稿依頼して、「穆佐小学校時代の思い出の記を記念文集として発行しました。後輩たちへのメッセージとして、40代から91歳の大先輩までの幅広い年代による故郷への思いがこめられた文集になりました。

「在京穆佐会」は結成して17年。万年事務局長を務めています。あるさこの思いを語ろう宮崎弁の飛び交う開店27年を迎えるお店が港区新橋に有ります。

49年白門会の皆さんとの交流の場にも出来る限り参加して、これからの人生をよりよきものにしていくものです。







# 49同期GOLF会活動記

2011年  
9月10日(土) 萩原紀行(法)

09年5月30日に第一回を開催した49同期GOLF会も、今春は東日本大震災のため中止になりましたが、春と秋の年二回の開催で5回目を迎えました。最初は参加者が1組4名でしたが、今回は、3組9名とコンペ形式での開催ができました。

このような楽しい時間を持てるのも、ひとえに代表幹事の高木さん、遠く宮崎県から毎回参加頂いている黒木さんの下支えのおかげと感謝しております。

さて当日は、紀伊半島に多大な被害をもたらした台風12号も過ぎ、快晴のゴルフ日和になりました。戦いの火蓋は、慣れ親しんだ埼玉県の飯能パークカントリークラブのインコースから切られました。イン・アウトと厳しくも楽しいプレイの結果、私こと萩原が記念すべき5回大

会を制し、栄えある優勝の栄誉に浴し、今回、奇稿させていただいています。なお、参加者ならびに優勝者のスコアの公表は控えてさせていただきますが85〜115の間です。

優勝インタビューにて  
Q:「萩原プロ。ゴルフコンペでの優勝は人生通算3回目ですね」  
A:「ありがとうございます」  
Q:「ひどいスコアでの優勝ですがそのことに負い目はないですか」  
A:「全然。運も実力のうちですよ」  
Q:「優勝の秘訣はなんですか」  
A:「「口を閉ざす」の行いのおかげです」  
Q:「次回に向けて抱負を一言」  
A:「次回はもっと多くの同期に参加いただき、そのなかで連覇したいと思います」

49年白門会会員の皆様、健康管理、ストレス発散とポケ防止のため49同期GOLF会に参加しましょう。次回は3月です。詳しくはHPで...

今回の会報第23号のテーマは「還暦」である。自分にとっては遠い存在であった還暦を今年9月に迎えた。一昔前であれば、赤いチャンチャンコでお祝いとなるのだろうがチャンチャンコの代わりに種々、記念の品を頂いた。

## 編集 後記 還暦と年金

一方、60歳になると年金の手続きをしなければならない。今まで年金定期便等で書類が送られてきていた

## 2011年度 会費納入のお願い

「49年白門会」は、皆様の会費によって運営されております。11年度（11年4月1日〜12年3月31日）の会費は7月末までに納入のお願いを

しております。

その後の未納の方には随時お願いのお手紙を差し上げております。未納の会員の皆さまには、11年度の会費を会計年度である12年3月末までに納めて頂きますように、是非、協力をお願いいたします。（会計部）

## 会費の納入についてのお願い

49年白門会は会費によって運営されています。未納入の方は、是非、会費を納めてくださるようお願いいたします。

年会費3,000円、入会金1,000円です。

なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

- ①郵便振替（手数料は不要です）  
振替口座番号「00180-3-196081」  
口座名称 「49年白門会」
- ②銀行振込（振込手数料が必要です）  
銀行名 三菱東京UFJ銀行日野市役所支店 普通預金「0569115」  
口座名 49年白門会 代表 山崎厚太

### 49年白門会連絡先・事務局

※住所・勤務先変更、新規会員紹介、お問い合わせ等、何でもご連絡ください。

※年2回発行するこの会報へ、広告の出稿、詩、俳句、エッセー等の原稿、企画案、ご意見をお寄せください。

49年白門会幹事長 中島章夫

東京都文京区春日1-13-27 中央大学 研究支援室  
TEL 03-3817-1602 FAX 03-3817-1677

※メールアドレスの登録・変更は  
hakumon49@gakuinkai.com にご連絡ください。

## LINK 登録募集中!!

HP管理人・肥沼敏子(理工)  
49年白門会ホームページをリニューアルしました。  
といつも使いやすいを旨として

のデザイン変更のみです。学生時代に使っていたルーズリーフを開いたようなそんな感じで纏めてみました。上に並んだラベルにはすべてのメニューが載っていてどこに何があるのかがわかります。もしかしたら今まで気が付かなかったページがあるかも知れません。どうぞ今一度サイトを覗いてみてください。

コンテンツの手直しも始めたところです。「業畜なほなし」を読んでいて、LINKのページを充実させようと思いつきました。ブログやHPをお持ちの方、49会のHPにLINKを登録しませんか？お仕事のページでも趣味のページでもOKです。（政治関係、宗教関係のものはご連絡ください。）ご連絡お待ちしています。

メールアドレスも変更しました。HPを開設以来使用していたものですが、迷惑メールがたたくさん届くようになりしたのでリニューアルに合わせて変更することにしました。旧アドレスも当分の間受信可能です。

新しいアドレスは  
hakumon49@gakuinkai.com  
です。